介護初心者の悩みに応える

“つどい”は知恵の宝庫 169

担当／宮崎県支部
協力／本部電話相談員

※あなたのご意見、ご感想をお待ちしております。

主治医から胃ろうを勧められて迷っています

60歳台後半の夫（要介護３）は５年前、レビー小体型認知症と診断されました。一日の中で変動はあるものの会話はできます。身体状況では手足の震え、歩行不安定などのパーキンソン症状があり、のみ込みが悪くなってからはトロミ剤も使っています。この頃むせることが増えたため、主治医に相談したらあっさりと「胃ろうを造りましょうか」と言われました。むせることはあっても、肺炎にはなっていないし、まだ70歳にもならないのに胃ろうなんて…ショックでした。どうしたらいいでしょうか？（相談者：妻　60歳台）

必要な栄養を摂ることができます▶

医師から胃ろうを提案されたとき、夫は、70歳でまだ若かったので、体力が付くのを期待してお願いしました。おかげでむせ込むこともなく、必要な内服薬や栄養を摂ることができ、また、おやつにプリンや好きな甘味は口から食べています。ペットの犬が膝に上がると笑顔も出るようになりました。コロナウイルスが大変なときも、訪問サービスだけで、50日間家で過ごせました。私１人の介護でしたが、胃ろうにしておいたおかげで大変な思いをせずに済んで、良かったと思います。

リハビリや食事内容の工夫を検討してみましょう▶

パーキンソン症状で滑舌が悪くなり相手に話が伝わりにくくなる、飲み込みが悪くむせてしまうなど、口周りの症状が出てくることがあります。STはこうした口周りの運動や、食事、発声にかかわるリハビリや、食事内容の工夫として食べやすい食材や調理法なども提案させていただきます。食べたり飲んだりすることは生活を支える重要なことで、人生を豊かにする上でもとても大切です。まずはリハビリに取り組んでみましょう。

本人の思いを聴いてみましょう▶

高齢の父が主治医から胃ろうを勧められた時、本人の意思を確認することはできませんでした。でも、元気な時に「延命治療はしてほしくない」と常々言っていたので、家族の判断で胃ろうは断りました。弱ってゆく父を看ているのはつらかったですが、「胃ろうはやってもやらなくても家族は後悔するもの」と医師が話しているのを聞いたことがあります。あなたのご主人は若いので、急いで結論を出そうとせず、まずはご主人がどうしたいのかを時間をかけて聴いてみましょう。お二人で話をして結論を出せるといいですね。

セカンドオピニオンも検討しましょう▶

同じレビー小体型認知症でも、人によって症状の出方や進行の早さには差があります。嚥下障害の症状が進行し飲み込みが徐々に悪くなってきている現状をみて、治療のための胃ろうを提案しているのではないでしょうか。主治医にあなたの思いを伝え、なぜ胃ろうを勧めるのか、先行きどうなるのか等聞いてみましょう。セカンドオピニオンで主治医以外の先生の意見を聞いてみるのも一つの方法です。